

沖縄県系移民渡航記録を探す

沖縄県から海外へ移民した人は、戦前約 72,000 人、戦後約 18,000 人、合計約 9 万人に上る。移民した人を調べる上で、基礎資料となるのは、渡航記録と呼ばれる沖縄から海外へ渡った時に作成された資料である。渡航記録には、外務省が発給した海外旅券（パスポート）に関する「海外旅券下付表」、移民船乗船名簿、並びに、移民先で作成された下船名簿や入国記録などがある。ここでは、国内（沖縄県）と海外（移民国別）に区分し、資料を紹介する。

1. 国内（沖縄県）

1) 戦前期(1899年～1941年)

<データベース>

・「[沖縄県系移民 渡航記録データベース 1899-1941](#)」

<https://opl.okinawan-migration.com/>

このデータベースは、[沖縄県立図書館](#)、[ハワイ沖縄系図研究会](#)、[沖縄移民研究センター](#)が協働で開発した。1899年から1941年の間に、沖縄県から海外へ渡った沖縄県系移民の渡航記録約6万件を検索することができる。ハワイ、ブラジル、ペルー、フィリピンなど26か国・地域の渡航先を網羅している。収録されている渡航記録は、外務省外交史料館所蔵「外務省記録（海外旅券下付表）」から沖縄県に本籍がある移民を抽出した記録等である。（詳細は下記<図書資料>参照）

氏名、移民国、生年月日（年齢）、性別、渡航日（旅券発行日）、戸主との関係、渡航目的、本籍地の検索が可能で、日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語に対応した検索画面はある。また、同じ本籍地から移民した人を一括して表示することができる。

<図書資料>

・「[沖縄県系移民 渡航記録データベース 1899-1941](#)」に収録されている渡航記録

『沖縄県史料 近代5（移民名簿Ⅰ）[1899-1906年]』

『沖縄県史料 近代6（移民名簿Ⅱ）[1907-1911年]』

『沖縄県史 資料編6 近代1（移民会社取扱移民名簿）[1912-1918年]』

『沖縄県史 資料編8 近代2（自由移民名簿 [1908年-1920年]）』

『沖縄県史 資料編11 近代3（移民会社取扱移民名簿 [1919-1926年]）』

『沖縄県史 資料編19 近代6（自由移民名簿 [1921-1925年]）』

『外務省記録「海外旅券下付表」』（1899-1941）※未刊行分含む

『[伯刺西爾行移民名簿 第77回-第306回\[1927-1941\]](#)』※国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可 <https://dl.ndl.go.jp/pid/1449884>

- ・『外務省記録「海外旅券下付表」〔複製本〕 1～65』

上記の『沖縄県史料』『沖縄県史 資料編』の元となった外務省外交史料館所蔵「外務省記録（海外旅券下付表）」から沖縄県に本籍がある移民を抽出した渡航記録。1889年(明治32年)2月～1944年(昭和19年)9月までの記録を65巻に分冊している。63～65巻は「海外興業株式会社海外渡航者名簿」という書名になっている。

- ・「市町村史 移民編」「字誌」

沖縄県の市町村の多くは、史料編纂の一環で、移民に特化した移民編を出版している。その中で上記外務省記録「海外旅券下付表」などから各市町村出身者を抽出し、さらに移民先や出身地域での聞き取り調査などで得た記録を加えている。また、戦後移民の渡航者情報も網羅している市町村史もある。「字誌」ではさらにその地域の出身者の証言や写真等記録を追加している場合もある。市町村史の移民編が出版されているのは、国頭村・大宜味村・金武町・宜野座村・嘉手納町・北谷町・宜野湾市・浦添市・北中城村・糸満市・豊見城市・南城市（旧玉城村・旧大里村）である。

2) 戦後期（1945年～）

<図書資料>

- ・『移住者原簿1～7』『市町村別移住者名簿1～2』自館作成

琉球政府の移住課が作成したブラジル(1953-1970年)・アルゼンチン(1953-1970年)・ペルー(1957-1970年)・ポリビア(1954-1970年)へ移住者約12,300名の個票。移住者世帯の生年月日、本籍、現住所、家族構成および保証人の住所氏名の記載あり。『市町村別移住者名簿』はカナダ・パラグアイへの移住者の氏名の記載あり。どちらも原資料は沖縄県公文書館が所蔵。

2. 海外（移民国別）

(1)ブラジル

沖縄からのブラジル移民は、1908年の笠戸丸から始まり、戦前約15000人、戦後約9,500人が海を渡り、戦前戦後を合わせると最大の移民国である。呼寄せや青年隊を除き、ほとんどが1世帯3名以上の家族移民であった。

<データベース>

- ・「[足跡プロジェクト 移民船の乗船者名簿データベース](http://imigrantes.ubik.com.br/)」※ポルトガル語

<http://imigrantes.ubik.com.br/>

ブラジル日本移民史料館は、ブラジル日本移民百周年記プロジェクトの一環として、

戦前戦後（1908-1973年）に日本からブラジルに移民した23万人の乗船記録を検索できるデータベース構築した。ポルトガル語の検索画面でローマ字入力により検索可能。氏名、移民船名、出発日、到着日、出身県、目的地が表示される。世帯（家族）ごとに表示される。

- ・「サンパウロ州移民収容所 収容者名簿データベース」※ポルトガル語

<http://www.inci.org.br/acervodigital/livros.php>

サンパウロ州移民博物館が提供している移民収容所に滞在した者を検索できるデータベース。海外等からブラジルへ到着した移民の多くは、サンパウロ市内の収容所で一定期間滞在時、健康診断や外国人登録などが行われた。氏名、年齢・性別・国籍・婚姻有無・目的地・出身国（県まで）・船名・到着日などを記載。原資料も閲覧可能。

- ・「移民船 下船者名簿データベース」※ポルトガル語

<http://www.inci.org.br/acervodigital/passageiros.php>

サンパウロ州移民博物館が提供している移民船の下船者名簿。船名などで検索し、到着日や下船者名簿の原資料を閲覧可能。

- ・「FamilySearch（ブラジル入国証明書など）データベース」

<https://www.familysearch.org/>

末日聖徒イエス・キリスト教会が提供する世界最大規模のルーツ調査に利用できる無料のデータベース（要ID登録）。FamilySearchは、アメリカ合衆国をはじめブラジルなど世界各国の公文書が検索でき、移民の乗船名簿、出生・死亡結婚証明書、国勢調査などを氏名から検索することができる。ブラジル入国時に撮影された外国人登録証（写真付き）なども含まれる。

<図書資料>

- ・『ブラジル沖縄移民名簿』屋比久 孟清／編著、1987年

サンパウロ総領事館、資料館にある日本移民名簿から沖縄県系移民を抜き出して作成。戦前移民、戦後移民（沖縄産業開発青年隊含む）、転住移民（ペルー・ボリビアから）に区分されている。渡航船ごとに、船名、到着日、世帯ごとの氏名・続柄、年齢、出身地（字名まで）、最初の目的地（耕地名など）を網羅。

- ・『笠戸丸移民 未来へ継ぐ裔孫』赤嶺 園子／著、2014年

第一回ブラジル移民のうち沖縄県出身者325人の足跡と子孫をブラジル、アルゼンチン、沖縄で追跡調査した記録した資料。出身市町村別に氏名、生年月日、本籍地、死亡年月日、最初の配耕地などの情報も網羅されている。

- ・『移民青年隊着伯 25 周年記念誌』在伯沖縄青年協会／[編]、1984 年
1957 年から 1964 年までの間、14 次にわたり 303 名の沖縄青年がブラジル移民青年隊として、渡航した。隊員名簿及び住所録(1984 年時)、引受人名簿及び配耕先を網羅。隊員名(移民者氏名)、出身地(市町村)、引受人(ブラジル在県系人)、配耕先、現住所などがある。

[備考]

戦前期にブラジルへ渡った県系移民の一部は、ペルーから転住したケースもあるため、見つかからない場合はペルーの渡航記録も参照。

(2)ペルー (戦前のみ)

<データベース>

- ・「[Pionerosーペルー日本人移民データベース 1899~1941](https://jommdms.jica.go.jp/)」※日本語
<https://jommdms.jica.go.jp/>

ペルー日系人協会と JICA 横浜 海外移住資料館による共同プロジェクトにより構築。1899 年から 1923 年までの契約移民 18,727 人全員と、1923 年から 1941 年までの自由移民の一部、2,348 人分のデータを収録。氏名、生年月日、渡航前住所(市町村名まで)、乗船船名、ペルー到着日、配耕地名などを検索可能。

<図書資料>

- ・『秘露移民航海者名簿 01~02』自館作成
1899 年 4 月(第 1 航海)~1923 年(第 82 航海)の乗船者名簿の手書き資料。航海別に都道府県別に氏名・生年月日・本籍地・配耕地名の記載あり。氏名だけのものも多い。原資料は、国立国会図書館所蔵の日本人ペルー移住資料館”平岡千代照”所蔵資料マイクロフィルム。
- ・『ペルー移民七十五周年記念誌』伊芸 銀勇／編、1987 年
上記と同様の 1923 年(第 82 航海)までの渡航者名簿のうち、沖縄県出身者のみを抜粋した名簿。氏名・出身市町村名・配耕地名の記載あり。

(3)アルゼンチン

<データベース>

- ・「[移民船 下船者名簿データベース](#)」※スペイン語

<https://cemla.com/>

ラテンアメリカ移民研究センターのサイトにあり、1885-1960年までにアルゼンチンに船で到着した4.4百万人以上（200か国以上）下船者名簿を収録。名字のみでローマ字検索可能だが、検索する際、文字認証する必要がある。氏名、年齢、出身国・県、職業、到着日、船名、出航港が検索可能。

<図書資料>

・『アルゼンチンのうちなーんちゅ 80年史』アルゼンチンのうちなーんちゅ 80年史編集委員会／編、1994年

市町村別に一番古い移住者10名の氏名・生年月日・到着年・最初の職業の記述あり。

[備考]

アルゼンチンへ渡った県系移民は、ブラジルなどから転住するケースもあるため、見つからない場合は他国渡航記録も参照してください。

(4)ボリビア（戦後のみ）

<図書資料>

・『ボリビア・コロニア沖縄入植 25周年誌』金城 達己／編、1980年【1001961703】
1954年の第1次から1968年の第21次までの琉球政府計画移民(3,371名)の世帯別氏名・続柄・出版時（1980年頃）の異動状況（転住、帰国、婚姻、死亡など）及び現況（在住地）を網羅。出身地は市町村名まで。また、1952年のペルーに入国できず、暫定的にボリビアに入国したペルー移民呼称45名(主に2世)の氏名も記載している。

・『ボリビアの大地に生きる沖縄移民』コロニア・オキナワ入植 50周年記念誌編纂委員会／編、2005年【1008643353】

上記の琉球政府計画移民の世帯別氏名・続柄・生年月日、出版時（2005年頃）の異動状況（転住、帰国、婚姻、死亡など）及び現況（在住国）を網羅。1969年～1978年海外移住事業団（のちJICA）移住者や沖縄県県費留学生など留学生の名簿も記載。

[備考]

戦前期にボリビアへ渡った県系移民は、ペルーから転住したケースが多いため、ペルーの渡航記録を参照。